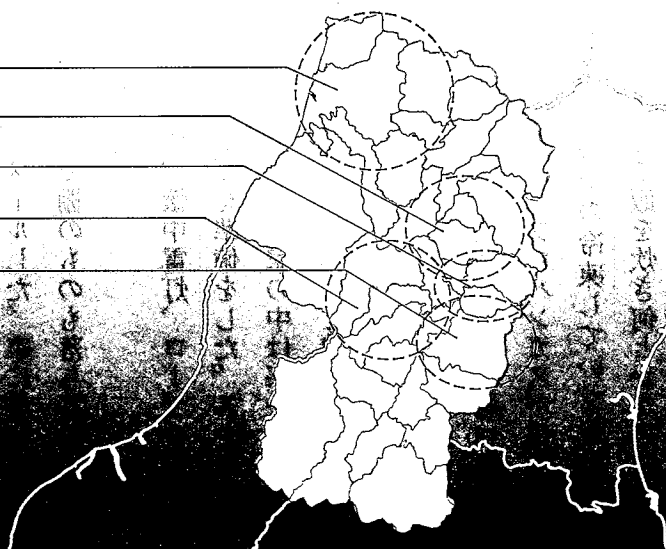


山形支部

酒田電友会
電友会村山クラブ
電友会さくらんぼ
電友会おいたま
霞城クラブ



NTT OOBの力強い行動力



霞城クラブ
江場 和男

大震災の当日は家族で買い物に出かけてガラス製品を見ていたときでした。携帯電話から大地震発生の警報が鳴ったとたんにガチャガチャと製品がぶつかる音がして急いで外の駐車場に出ました。そこでは地面は上下左右にうねり、駐車中の車も大きく揺れ動いているというこれまでに見たことのない光景を目にしました。揺れの治まるのを待つてすぐ自宅へ向かおうとしたのですが、ほとんどの信号機が停電のため機能しなくなり幹線道路は大渋滞で、どうにか裏道に回り込んで帰宅した頃には暗くなっていました。

自宅はマンションの8階で4か月前に引越してきたばかりでした。停電のためエレベーターは使えず、階段を上って家に入り、懐中電灯で照らしながらリビングに行ってみると、パソコンラックとテレビが部屋の中央まで移動し、その周りには食器類が壊れて散乱している状態でした。もしも、家においてこの大地震にあつたら、かなり恐ろしい目にあつたのでは・・・とぞっとしました。

停電により給水も、暖房もできなくなり、

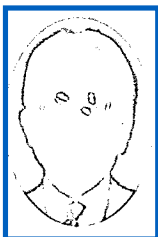
2日間ほど大変不便さを感じていましたが、電気が回復するやテレビで大津波による被害の甚大さを知り只々茫然としました。

NTTの被害もかなりのものでした。現役の方たちが通信設備の復旧活動に取り組んでいる状況を知るにつけ、OOBとして何かお手伝いできることはないだろうかと思つていたところ、山形支店が被災地仙台で通信設備の復旧活動をしている社員の皆さんへおにぎりを作つて届けているというを知り、霞城クラブからもメンバーを派遣して手伝わせていただきました。また、東北地方本部を中心として取り組まれた「救援カンパ」についても幹事さん達の力強い行動力により会員の善意をまとめることができました。

このような貴重な経験を今後の活動に生かして行きたいと思つています。

絆を大切に生きていきたいと思つています
あの日を忘れない(3・11)

がんばろう！とうほく



電友会さくらんぼ
阿部 孝記

私は、あの東日本大震災・福島原発事故発

生以降、色々な人々と関わりを持ち、種々の活動を続けてきました。

ともすれば少しずつ忘れ去られるのではないかという思いが最近強く感じ、ペンを取りました。

1. 友好都市の石巻市との絆

(1) 我が町河北町は10数年前に宮城県河北町(我が町と同じ字の町で現在は石巻市に合併)と友好都市としていろいろな交流がありました。

大震災発生後、いち早く支援活動(町を挙



区長会の石巻市でのボランティア活動

げての義援金や米を贈る)を始めました。

その中で、浸水した家屋からの泥出しやガレキ撤去作業にボランティア活動の要請をうけて、町では町民にボランティア活動への参加を呼び掛けたところ、70名程の町民が手を挙げました。

具体的なボランティア活動をする為に、田宮町長から町と一緒に打合せ等で、石巻市に行ってほしい話を受け、3月31日に大場副町長・岸環境防災課長と石巻市役所・石巻市社会福祉協議会を訪れました。

道路の両側にうづ高く積まれた家財道具(畳や家具等)や、自動車や漁船が街のあちらこちらに横転している光景にこれは大変なことになっている!と思いました。

ボランティア活動の第一陣として、県立谷地高校の卓球部の20名の生徒と先生と一緒に4月9日に町のマイクロスバスで私が引率責任者として出掛けました。

このボランティア活動の様子(出発、現地での活動、帰着)は、地元のTUY・TVが密着取材し、後日放映されました。

参加した高校生は皆、小さなボランティア活動だが、多くの人々が参加してほしい!と呼び掛けたのには感激しました。

この日帰りボランティア活動は、6月まで

毎日続けられ多くの町民(100名を越す)が参加しました。

(2) 私は荒町中自治会長をやっており(6年目)、区長会谷地支部研修会として、昨年8月29日、30日に一泊区長研修会を石巻市河北地区の行政委員(自治会長)との意見交換会を行い、震災当時の生々しい奮闘ぶりを聞きその後大川小学校跡地と南三陸町防災庁舎跡地の慰霊に訪れて、改めて町内の安心・安全の責任者としての自覚を思い知らされました。

2. NTT・OBとの絆

(1) 私はNTTグループボランティア山形いきいきネットワーク会長(13年目)として種々の関わりをもってきました。

3月11日の翌日に初めての企画として「第1回いきいき・うたごえ喫茶」を開催すべく準備をしていましたが、残念ながら中止をせざるを得なくなりました。

この「いきいき・うたごえ喫茶」は、あの日は忘れない!を合言葉に第1回は昨年3月10日に、第2回は今年3月10日に金崎支店長・関井支店長も参加し、自慢のギターや歌を披露し盛大に開催することが出来ました。

山形県内は幸いにして大きな被害も無く5月にはふれあい活動(電話掛けやハガキ送付)

の中で、大丈夫でしたか！とOBの皆さんにはげましの活動をしたことが出来ました。

この活動の中で、ボランティアメンバーにカンパの呼び掛けをして、6月にテルウエル仙台にさくらんぼ3箱を持って激励に伺いました。

(2)井上一芳さん(前双葉町役場副町長)との絆

福島県双葉町の方々が埼玉県加須市の旧県立騎西高校で避難所生活を送っており、その陣頭指揮で、頑張っている井上副町長は私が東北支社企画部時代にお付き合いがあったOBの井上一芳さんと知り、昨年11月の「NTT・OBいきいき講座の修了式」の際に、



双葉町の皆さんへ激励の寄せ書き

埼玉県加須市で避難所生活をしている双葉町の皆さんに「山形名産のラ・フランスを贈ろう！」と呼び掛け、多くの善意のお金で11箱のラ・フランスを贈るため、激励の寄せ書きを携えて11月28日に加須市に出掛けました。

20数年振りの井上さんとの再会は感動そのものでした。多くの町民が、故郷を遠く離れた地で過酷な避難所生活を強いられている光景には、涙が出る思いでした。

今も旧県立騎西高校での避難所生活は続いています。

(3)大友寿子さんとの絆

私は20歳後半に初めて仙台に転勤(東北電気通信局・施設部管理課)になり、施設部無線課の大友さんと知り合いました。

その大友さんが大震災の大津波で大変な事(家が津波に襲われて、本人は自衛隊のヘリコプターに救出され六郷中学校で避難所生活)になっていることを知り、平成23年5月1日に家内と一緒に出掛けました。(その後六郷中学校には数回訪れました)

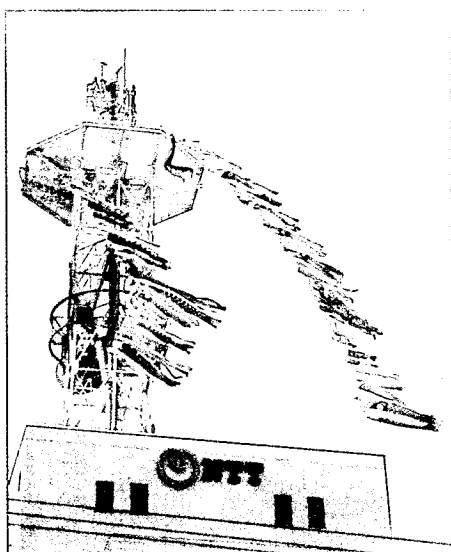
海から数100mのご自宅周辺は大木が散乱し、1階部分は泥だらけの状態。この地は住宅地としてはダメとの仙台市からの通知にまさかこの様な事になるとは思いもよらない

い出来事に、ただただうなずくばかりで慰める言葉もありませんでした。

当時の仲間達(長坂利治さん・武澤とよ子さん・鈴木正巳さん・佐々木隆さん)と折りに触れ、大友さんを囲みこれからも花見や芋煮会等交流を続けていこうと思います。

※私には叶えたい夢があります

へNTT石巻支店屋上のパラポラアンテナを利用して、ビルより高い鯉のぼりを揚げたい！



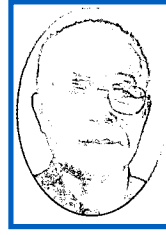
ビルより高い鯉のぼり(山形店)

石巻市のボランティア活動で訪れた際に、NTT石巻支店(石巻駅近くの)の屋上のパラポラアンテナが目に入り、あ、そうだ！ビルより高い鯉のぼりを揚げたら良いのでは！と思いました。(私は現役時代に、米沢支店・山形支店でパラポラアンテナを利用してビルより高い鯉のぼりを近くの幼稚園児と一緒に

挙げてきました)

「東北楽天の優勝に元気をもらい、それぞれの思いを大事にし、これからもいきの長い支援活動をしていきたいものです！」

東日本大震災に思う



村山クラ
津田 博

東日本大震災が発生してから早いもので2年7ヶ月が経過しました。あの日は雪降りです特に午後から大雪となり、一尺以上積つておりました。テレビを見ておった時、突然つき上げるような地震がきて私はまるで船に乗っているようで、次々くる大波にゆらけているようでした。私は恐しくなり南無阿弥陀佛を唱えておりました。約12分位続いていたでしょうか。私達が生きているなかで、こんな大地震がくることを誰が予想していたでしょうか。電気、水道、電話、交通網が全てストップしてしまいました。冬期での発生となったため、石油ストーブを出して暖房をとり、寒さを凌ぐことができました。夜はローソクを燈しての不安な生活となり、街を見回すと真暗なさびしい風景でした。電気は一日位で復

旧、テレビでは連日地震による大きな津波のニュースが流れ、大変なショックを受けました。ガソリンが買えない日が一週間位続いたでしょうか。ようやく夜中から並んで20ℓ位詰められるようになりましたが、中には車の中で暖房をとるため練炭火鉢を使用し一酸化炭素中毒で死亡した老人もいたようでした。ようやくガソリンも通常に戻り安心しました。電友会の呼びかけで東日本大震災の被害者支援カンパをという要請があり、山形県内には退職者も合同で行われ、大変良かったと思えました。N T T村山O B会からも会員の皆さんより沢山の御協力を頂きました。又、岩手県山田町のカキオーナーになりました。又、との募集があり、村山では20口の申込みがありました。津波を受けた被災地では復興は名ばかりであり、一日も早い対策が求められています。又、福島の問題は一向に解決されずにいます。汚染水は増えるばかりでメドが全くついていないのが心配です。



合唱ボランティアに参加して

酒田電友会
森谷 隆子

私はS A K A T Aローゼン・コール女性合唱団に所属しています。20代から70代の幅広い年齢層で週1回の練習をしています。合唱ボランティアをするきっかけは、指導者が酒田市ボランティアで七ヶ浜のガレキ処理をした時、被災者を内面から支援する事が重要と感じ、「一緒に歌って楽しんでほしい、少しでも気持ちを和らげる事が大切だ。皆で合唱ボランティアをしてみよう」と提案があり、力仕事は出来ないが、私達の歌で元気になるなら是非訪問してみようと決まりました。1月、6月、10月の三回訪問し、午前、午後1回づつ計6回歌いました。会場は仮設住宅集会所です。曲目は誰でも知っている童謡、唱歌、流行歌です。1回目は歌詞カードを100部用意しました。所が、合唱団22名観客は10名。余りの少人数で力が抜けた感じだった。歌い始めたら一緒に歌い、1曲毎に笑顔で大きな拍手をしてくれます。話を交えながら「あまちゃんて有名になった『いつでも夢を』歌います。橋幸夫は来ていませんが吉永小百合に近い人達ばかりです」と。「あ

ははは……」と笑い声、一同大笑いし、大声で一緒に歌います。「夕やけこやけ」はトロンチャイムで合奏したり、「茶摘」は手遊びをしたり、その度に大きな笑い声と大きな拍手があります。「浜辺の歌」では七ヶ浜海岸を思い出し涙ぐむ人もいました。人気の歌はNHK復興ソング「花は咲く」です。必ずアンコールが出て、3回も歌う時もあります。1時間半程の演奏会ですが、「楽しかった。皆からエネルギーをもらった」「心のモヤモヤが消えた」等と心から喜んでくれました。私達も同じです。観客と一体となり、心が暖かくなるのです。ボランティアセンターの人達からも「心の支えになっている」と言われると訪問してよかったと思っています。1回目より2回目、そして3回目は顔なじみになり「また来てくれてよかった」「楽しみにしていた」と笑顔で迎えてくれ、帰りは1人1人と握手し、バスが見えなくなるまで手を振ってくれます。ジーンと心に響きます。3回目には、他の合唱団からも参加し26名で大合唱となりました。復旧は少しづつ進んでいます。復興はまだまだです。七ヶ浜町の人達を忘れない事、そしてこれからも続けたいと思っています。

なせば成る



七ヶ浜町七中仮設集会所での合唱ボランティア
(前列右から2番目)

電友会おいたま
影澤 政夫

平成23年3月11日午後2時46分、私は仙台五橋にあるビルの5階で変な錯覚に囚われていました。それは趣味である船釣りで、海がうねりが強くなり、船が前後左右に木の葉の様に弄ばれる感覚そのもので、地震である事は頭の一方で認知出来ているのに、どうにも波の感覚から醒めやらない。不思議な長い時間でした。これほどまでに鉄筋コンクリート

の建物を揺さぶる巨大な力、一瞬ビル崩壊“難破”の危険を心底に意識致しました。正に逃げ場の無い恐怖。あの時皆さんも経験された忘れられない記憶です。

発災後の災禍は、衆目の知るところですが私共、電気通信工事を生業とし、10年間微力ながら自営で携わってきた者として、これ程使命感に駆られた時期はありませんでした。NTTに胸躍り入社した時よりも倍加し「何とかしなければ」の一念に駆られました。幸いにして弊社社員も同様の覚悟を持っており、地元サービス総合班以外のアクセス班全員、瓦礫の中を福島・宮城・岩手沿岸部の応急復旧に向かってくれました。携わったのは石巻市周辺での線路応急対応・宅内故障対応2班6名、各仮設住宅対策ドコモ無線局新設12基に2班8名、福島相馬方面基幹線復旧1班4名、余震が続く中での高所作業・建柱作業は覚悟がいる事・慣れない土地での物品調達等々、心を痛めました。見事12基の基地局を含め、8月まで略完成させてくれました。さらに、只見水害で孤立している福島只見地方に復旧班として、引き続き対応した彼らを中心に誇りに思いました。

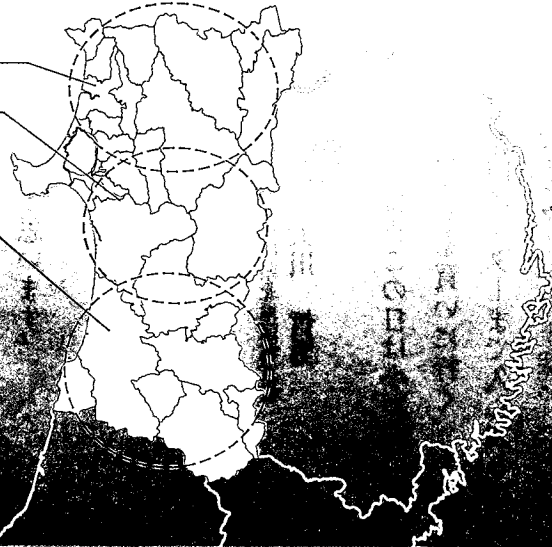
あれから2年、瓦礫も川や海に浮かぶ動物

の死体も今はありません。ただ、雑草が一面に生茂、人間の営みそのものが抹消された如く風が吹いています。復興の槌音も静かに打ち消されている悲しい光景が現実です。こんなことでは無念にも亡くなられた方々に申し訳が立つ訳がない。応急復旧に向かったときに車輛に貼った「なせば成る」ステッカーを再びつけて、本格復旧についても必ず参加し地元の方々の笑顔が見たい。社員一同そんな気持ちで一杯です。発災・災禍は決して忘れてはいけません。しかし、それ以上に復興を諦めてはいけないうし、それに携わろうとする気概こそ、残った者にとって一番大切なことだと、私は信じています。



秋田支部

秋田県北地区電友会
 千秋クラブ
 秋田県南地区電友会



東日本大震災に思う

千秋クラブ
 辰 正祥

平成23年3月9日、仙台で電友会地方本部主催の支部長、事務局長会議が予定されており、開始時刻に間に合うよう余裕を持ったダイヤで行こうと前支部長の鎌田様と打合せをし秋田駅へ出向いた所、盛岡、仙台で地震発生のため、予定したこまち号が運休となり、次の電車に乗ったはよかったのですが、会議開始時刻に間に合わず、大巾な遅刻での参加となりました。今にして思えば、あの日の地震が2日後の3月11日東日本全域を襲った大震災の前触れだったのだと思えてなりません。地震発生後のニュースは、新聞テレビで報道され、正にこの世の生き地獄を見る思いでした。津波の恐ろしさをまざまざと見せつけられ、大自然の破壊力とは何とすさまじいものなのか、人智を結集しても、到底たちうち出来るものでないと絶望感で一杯になったものでした。尊い命を一瞬にして奪われた方々、ご遺族の方々に思いを致す時、どんな言葉をもってしても慰めにはならぬだと思いつつも遺憾ともし難い無力感に苛まれる日々が続きました。犠牲となられた方々に對